

2014年 三次救急医療機関における看護配置等に関する実態調査 概要

公益社団法人日本看護協会

調査結果のポイント

1. 救命救急医療提供体制について、病院によって人員配置にバラつきがある

…3ページ【図1】

- 初療の看護配置について、「病棟の定員以外にあらかじめ初療対応用に人員を定めて病棟へ常時配置」が50.0%
- 「病棟の定員の中で、初療対応を実施(初療対応時は病棟の人員が少なくなる)」と回答した割合が17.3%
- 「病棟に人員を多めに配置して、初療対応時に必要時病棟の人員を少なくして配置」が9.6%

2. 救急看護認定看護師は、看護実践の他、人材育成等教育的役割を果たしている。

一方で院内トリアージの事後検証への関わりは半数程度 …4ページ

- 救命救急センターに救急看護認定看護師を配置している病院は83.3%を占める。【図2】
- 救急看護認定看護師を配置している病院では、認定看護師の役割として、「看護実践」(99.2%)が最も多く、次いで「院内研修の企画実施」(91.5%)や「人材育成・教育」(90.8%)等。【図3】
- 「救急センター・ERのトリアージの事後検証」への関わりは55.4%。【図3】

3. 日勤帯を除き、看護師以外の他職種*の配置が少ない …5ページ 【図4】

- “事務職員”については、日勤帯以外の配置が約3割。“事務職員”以外の職種(※医師除く)では、日勤帯以外の時間帯における救命救急センターへの配置は少なく、“臨床工学技士”“診療放射線技師”が「必要に応じて来る」体制をとっている病院が約5～6割となっている。

4. 救命救急センターにおける多岐にわたる業務をほとんど看護職が担っている

…6ページ【図5】

- 救命救急センターにおける看護職の業務内容は、「看護計画の立案・記録」が94.9%と最も多く、「経管栄養・経腸栄養」「シリンジポンプ・ライン類のルート交換」「死後のケア」「日常症状観察・バイタルサイン測定・モニター観察」等について、“患者の重症度に関係なく全て担う”が約7～8割。
- 「患者の重症度に関係なく全て担う」のみでは上記に比較して低いが、「患者の重症度に応じてほとんど担う」と合わせると、「日常生活支援(食事、排泄、清潔)」「睡眠・鎮静」「医師・患者家族との調整」も8割以上を占める。
- 「患者の病棟外や検査室等への搬送」「検査の介助」「体位変換・移動」について、“患者の重症度に応じてほとんど担う”が約4～5割。
- 「寝具・リネンの準備」「ベッドメイキング」「家族・患者への病状・経過・検査等説明」「急性期リハビリテーション」「医療機器の管理」「医療材料等の補充・準備・点検」は、“患者の重症度に応じて半分程度担う”が約2～3割。

5. 一部業務について、他職種との役割分担をもっと進めるべきとの考えがある

…7ページ【図6】

- 「寝具・リネンの準備」「医療機器の管理」「医療材料等の補充・準備・点検」「検体搬送」については、“患者の重症度に関係なく他職種がすべて(ほとんど・半分程度)担う”との回答があわせて8割前後。

- 「看護計画の立案・記録」「経管栄養・経腸栄養」「シリンジポンプ・ライン類のルート交換」「喀痰吸引」「急性期リハビリテーション」「死後のケア」「グリーフケア」「多職種カンファレンスの調整・進行」については、“(他職種が)あまり担わない”“(他職種が)全く担わない”の回答があわせて6割以上。

6. 救命救急センターにおいて看護職が担う役割として重要だと思う業務は、「状態判断・アセスメント」「日常症状観察・バイタルサイン測定・モニター観察」「看護計画の立案・記録」…8ページ【図7】

- 救命救急センターにおける看護職の役割として重要だと思う業務は、「状態判断・アセスメント」(82.7%)が最も多く、次いで「日常症状観察・バイタルサイン測定・モニター観察」(79.5%)、「看護計画の立案・記録」(46.8%)、「医師・患者家族との調整」(42.3%)、「日常生活支援」(41.7%)である。
- 「2013年療養病棟における看護職の役割に関する実態調査」では、看護職の役割で重要な業務として、「患者の状態判断・アセスメント」「日常症状観察・バイタル測定」「看護計画」が上位に挙がっており、看護職の役割として重要な業務の認識はほぼ同じであった。

7. 看護職の役割として重要だと思う業務の下位に位置づく業務の役割分担について、理想と現実のギャップがある…10ページ【図8】

- 救命救急センターにおける看護職の役割として重要だと思う業務の下位に挙がっていたのは、「薬剤の管理(在庫管理・ミキシング・持参薬の確認等)」等、【図7】の通りである。
- これらの業務に係る他職種との役割分担についてみると、いずれも、現状よりさらに役割分担をすすめたいとの意向がよみとれる。

8. 救命救急センターでの経験年数が1年未満・新卒者の割合が一定以上になると、離職率や、異動希望、退職希望が増加する…11～12ページ

- 救命救急センターの常勤看護職員の離職率は8.8%。【表1】
- 救命救急センター経験年数1年未満の看護職員の、全体に占める割合が2割以上を占める病院における救命救急センターの看護職員離職率は10.0%と、2割未満の病院8.4%に比較して高い。【表3】
- 新卒者の割合が1割以上の救命救急センターの看護職員離職率は11.0%と、1割未満の病院の離職率7.8%に比較して高い。【表3】
- 看護職員の他科への異動希望をみると、救命救急センター経験年数1年未満の看護職員の全体に占める割合が2割以上の病院の方が、2割未満の病院に比較して「異動希望が多い」との回答割合が高い。また、新卒者の全体に占める割合が1割以上の場合、「異動希望が多い」との回答割合が高い。【図9】
- 看護職員の退職希望をみると、救命救急センター経験年数1年未満の看護職員の全体に占める割合が2割以上の病院の方が、2割未満の病院に比較して「退職希望が多い」との回答割合が高い。また、新卒者の全体に占める割合が1割以上の場合、「異動希望が多い」との回答割合が高い。【図10】

9. 救命救急センターの看護職員の月平均夜勤時間数は78.2時間であり、入院基本料を算定している病棟の看護師よりも長い…12ページ【表4】

調査概要

- 1) 調査対象： 全国の三次救急医療機関(273 箇所)の病棟責任者(看護師長等)
- 2) 調査期間： 2014 年 10 月 1 日～10 月 17 日
- 3) 調査方法： 自記式調査票の郵送配布・郵送回収
- 4) 回収状況： あて先不明 1 通のため対象数 272 カ所、有効回収数 156(有効回答率 57.4%)
- 5) 基本属性： 下記参照

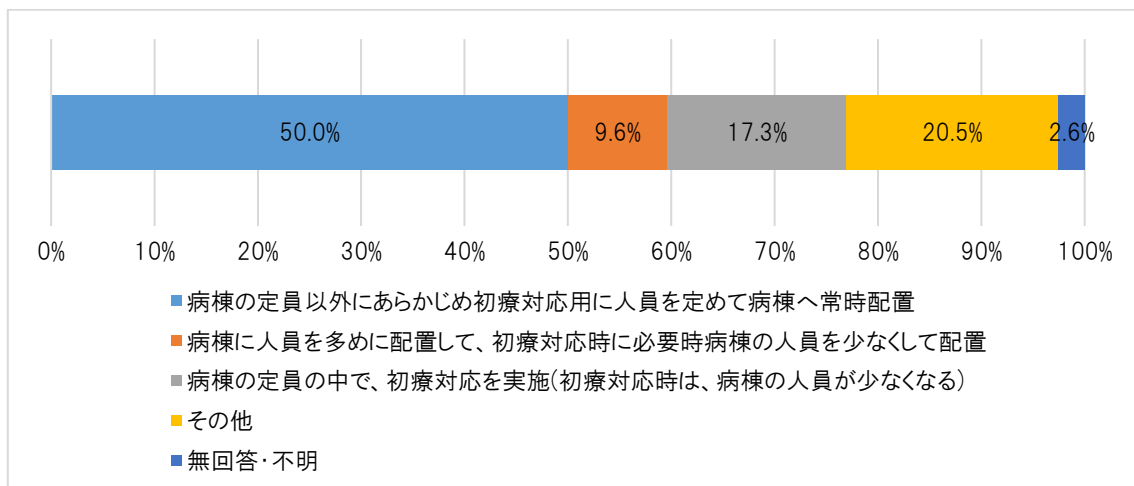
【回答病院の基本属性】

- 1) 都道府県：
全体に占める回答数が多かったのは「東京都」18 施設(11.5%)、「愛知県」16 施設(10.3%)、「神奈川県」11 施設(7.1%)の順。
- 2) 設置主体：
「公立」53 施設(34.0%)、「公的」35 施設(22.4%)、「国」24 施設(15.4%)など。
- 3) 病床規模：
「200 床未満」2 施設(1.3%)、「200～399 床」17 施設(10.9%)、「400～599 床」50 施設(32.1%)、「600～799 床」51 施設(32.7%)、「800～999 床」19 施設(12.2%)、「1,000 床以上」11 施設(7.1%)など。
- 4) 入院基本料の算定状況(n=156、複数回答)：
「一般病棟入院基本料」を届け出ている病院は 125 施設(全体の 80.1%)で、そのうち「7 対 1」が 118 施設(94.4%)、「10 対 1」7 施設(5.6%)など。
- 5) 特定入院料の算定状況(n=156、複数回答)：
「救命救急入院料」を届け出ている病院は 144 施設(全体の 92.3%)で、「特定集中治療室管理料」109 施設(69.9%)、「新生児特定集中治療室管理料」57 施設(36.5%)など。

調査結果

1. 救命救急センターの初療の看護配置

図 1 救命救急センターの初療の看護配置



2. 救命救急センターにおける認定・専門看護師の配置状況と役割

図2 救命救急センターの認定看護師・専門看護師(複数回答、n=156)

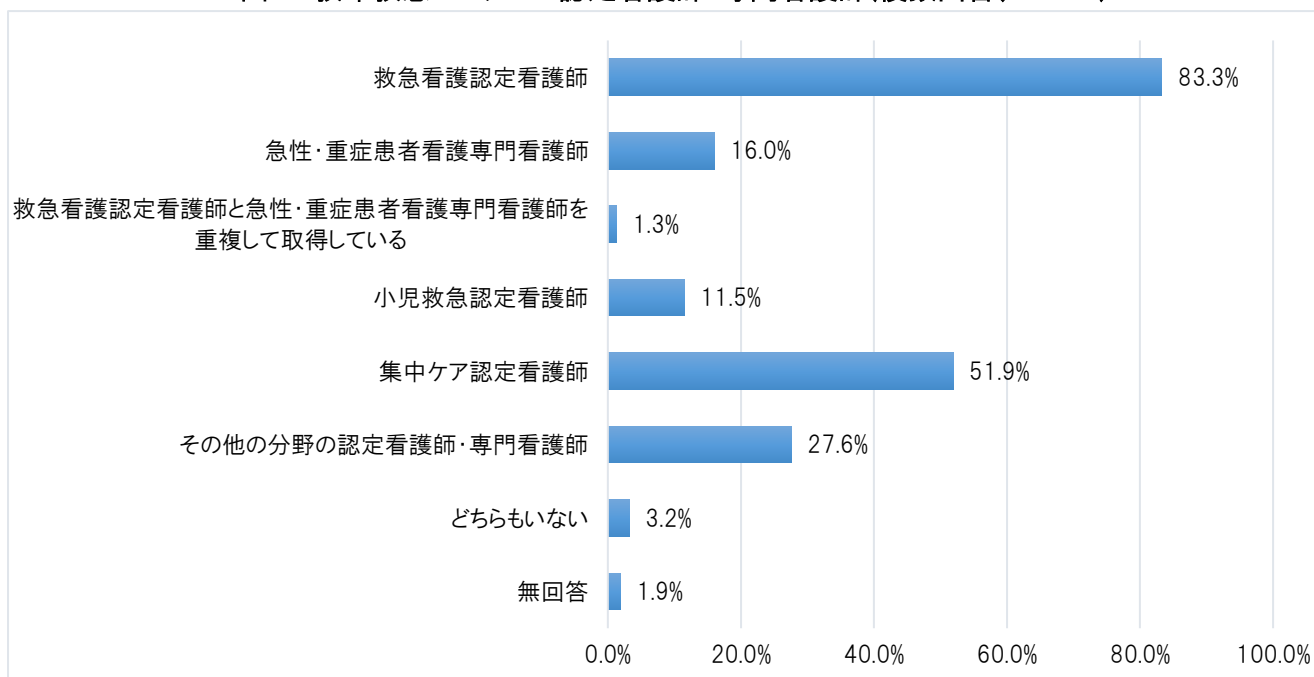
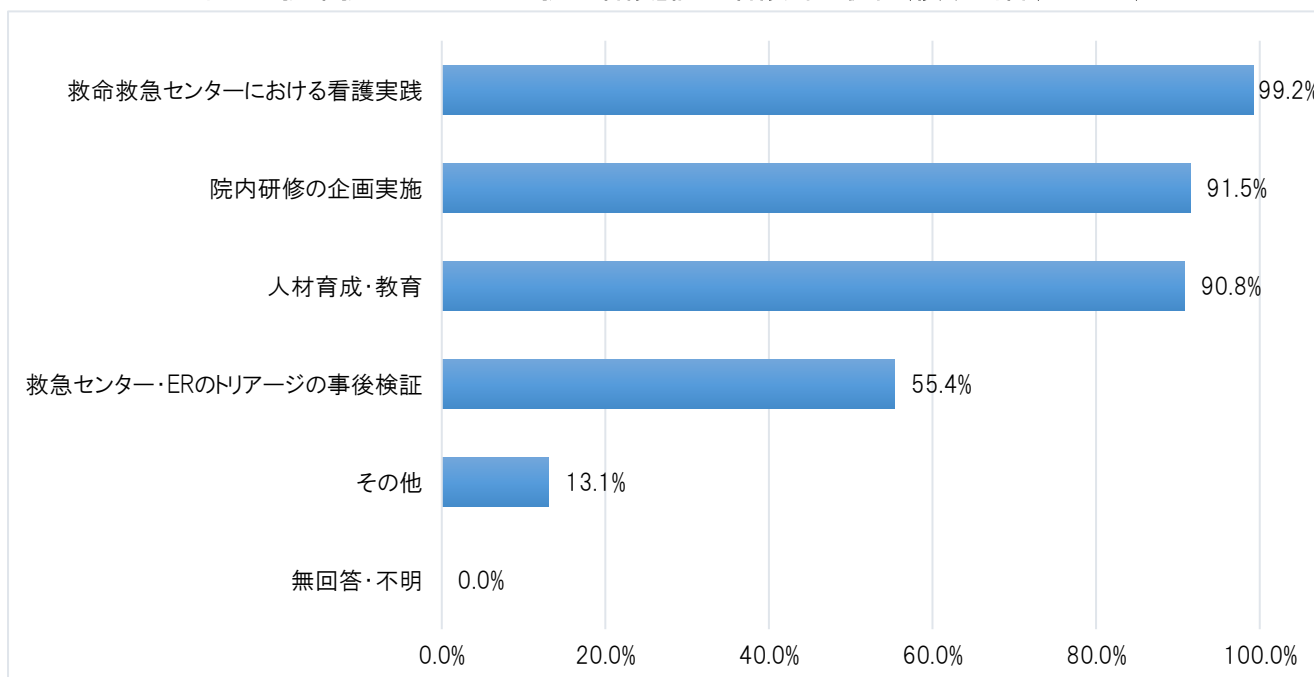
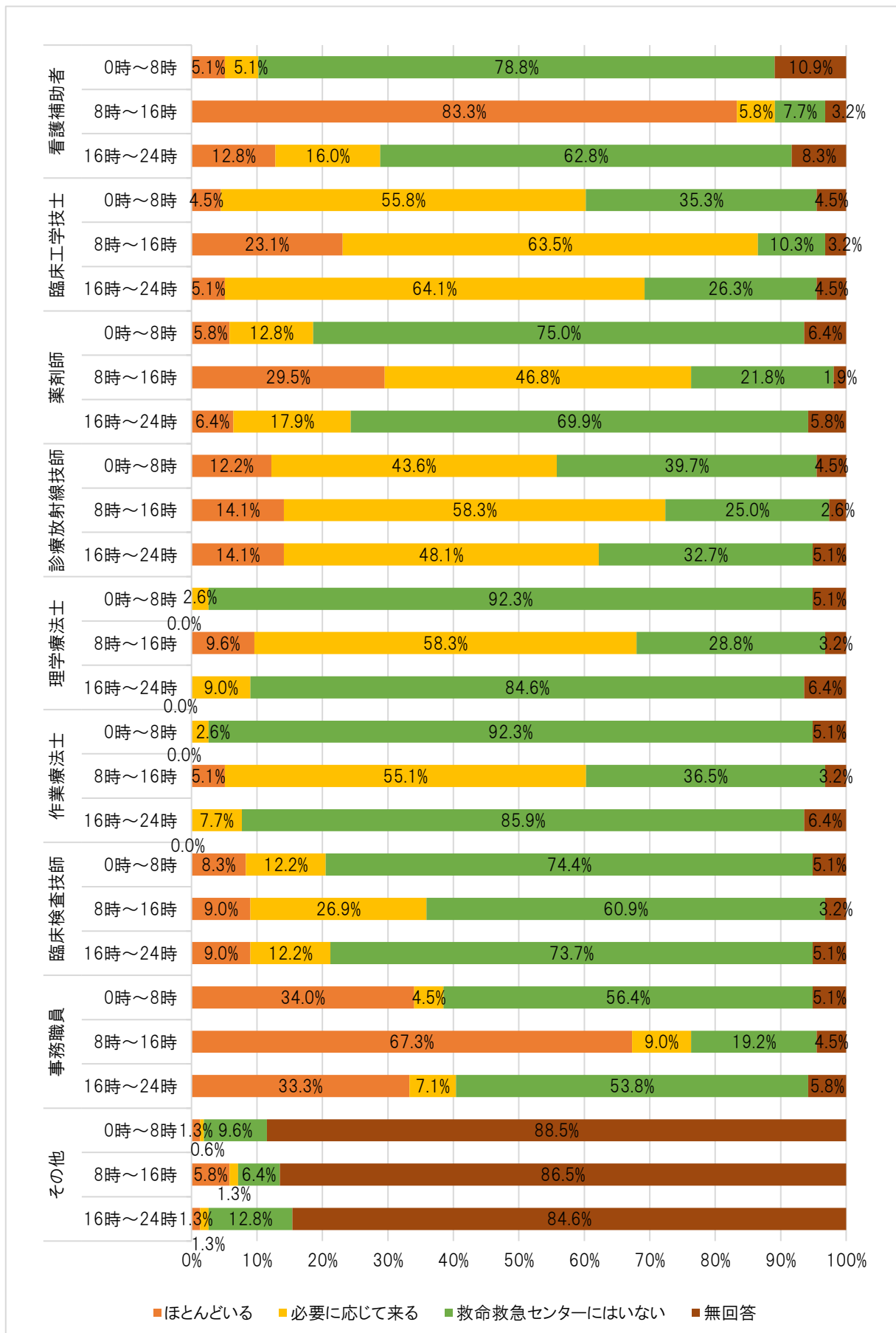


図3 救命救急センターの「救急看護」認定看護師の役割(複数回答、n=130)



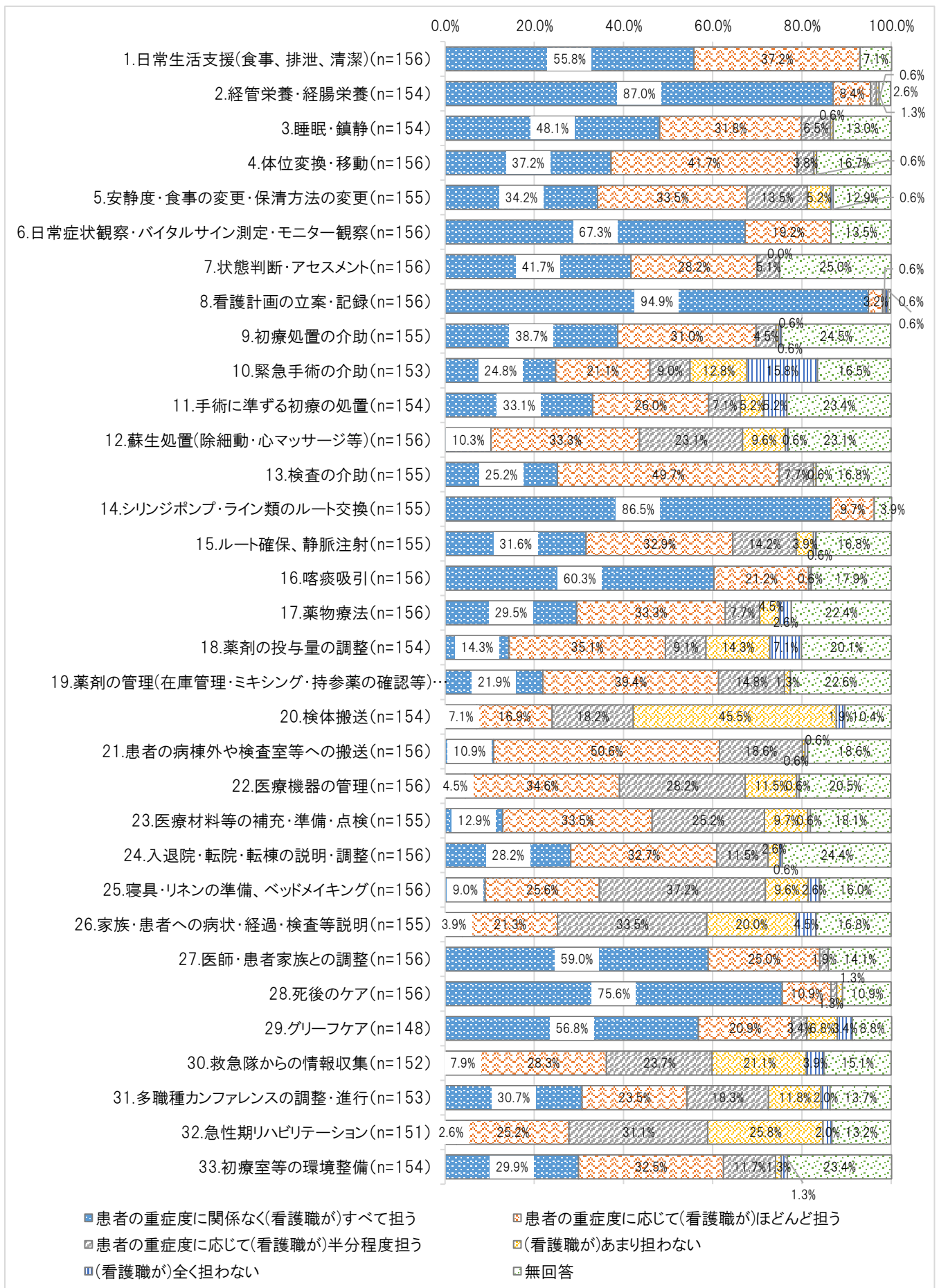
3. 他職種の勤務状況

図 4 他職種の勤務状況



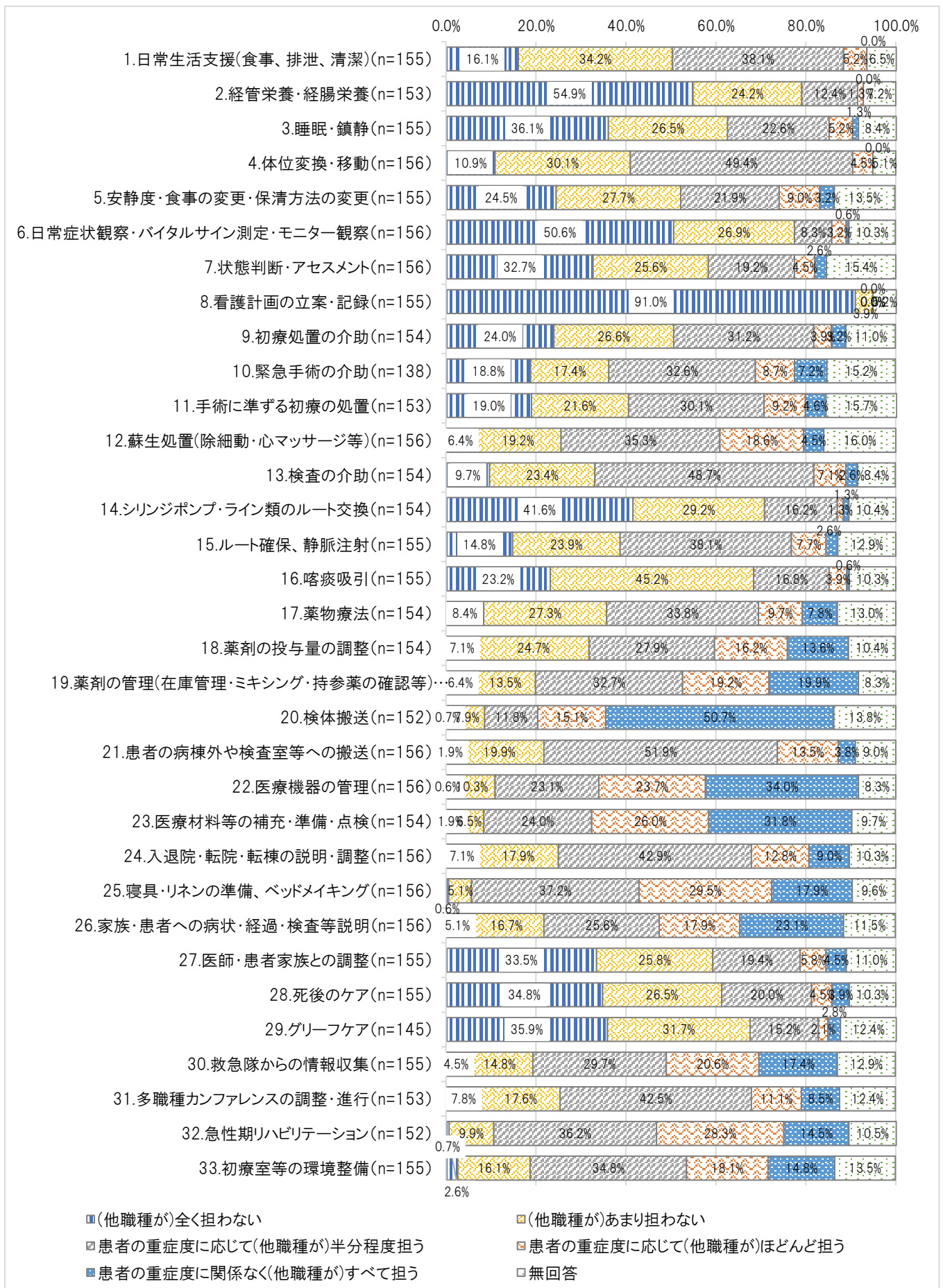
4. 救命救急センターにおける看護職の業務内容

図5 救命救急センターにおける看護職の業務内容



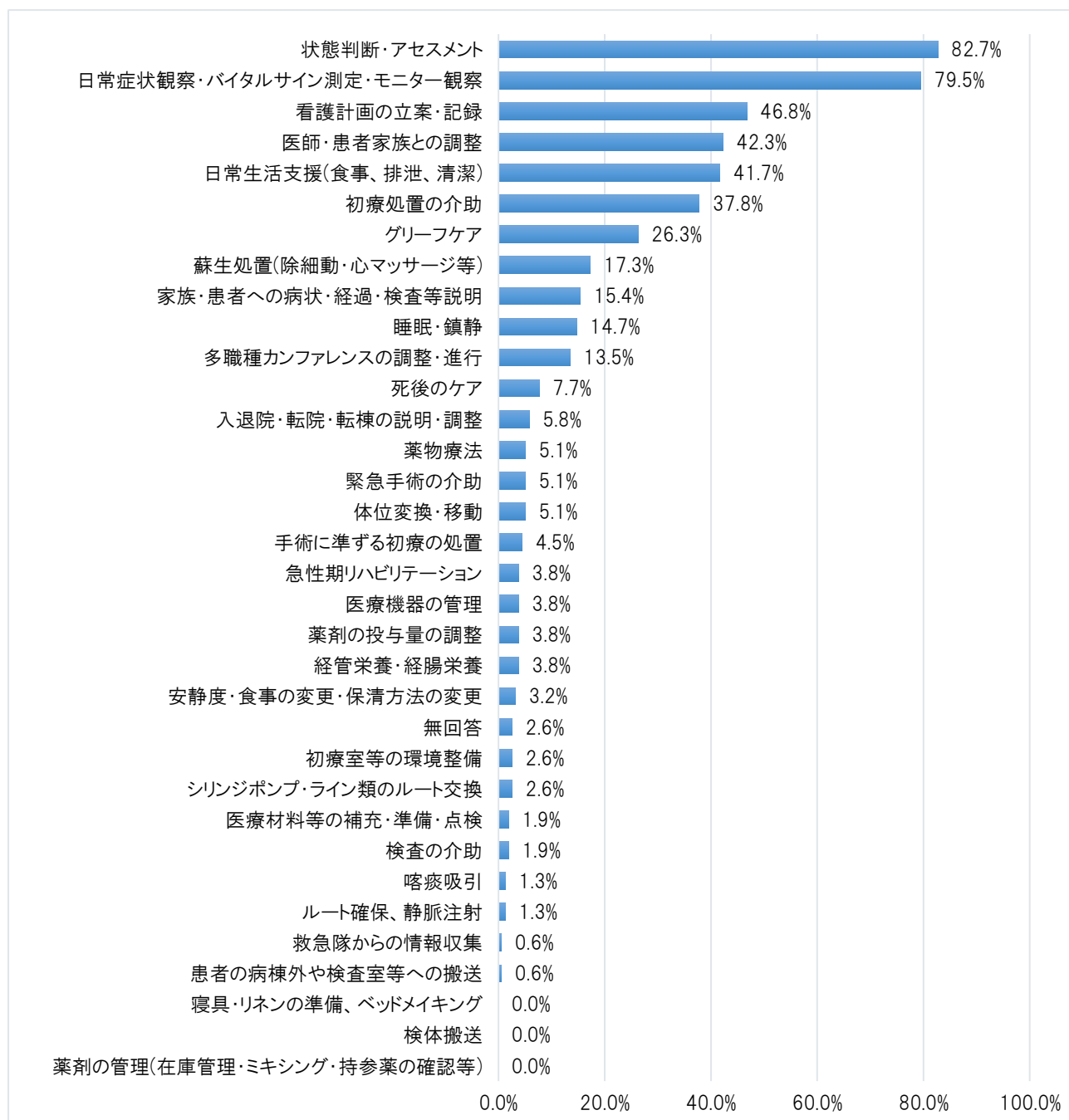
5. 救命救急センターにおける業務の役割分担

図6 救命救急センターにおいて他職種が担ったらよいと思う業務

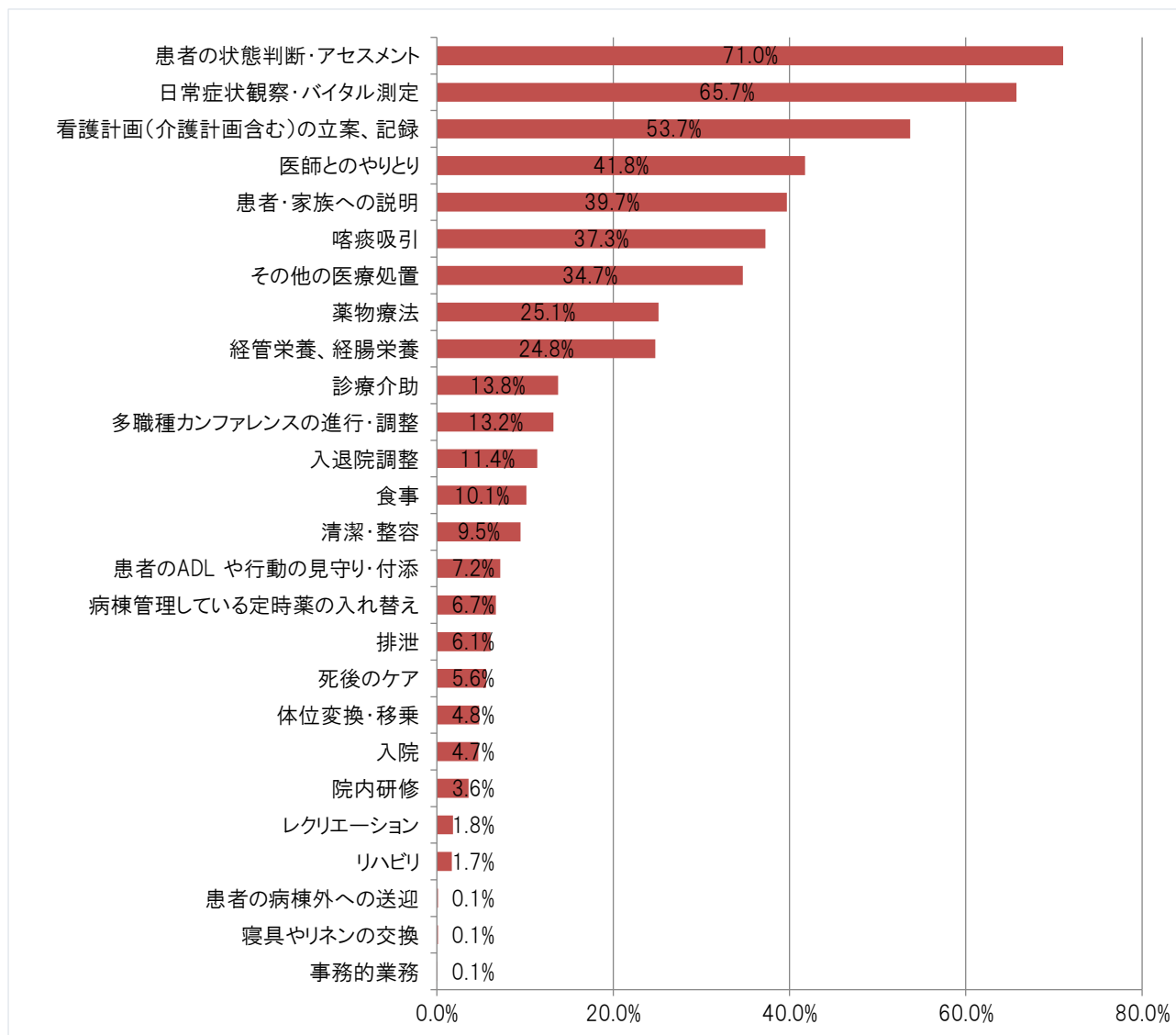


6. 救命救急センターにおいて看護職の役割として重要な業務

図 7 看護職の役割として重要な業務(複数回答)(5つ選択)



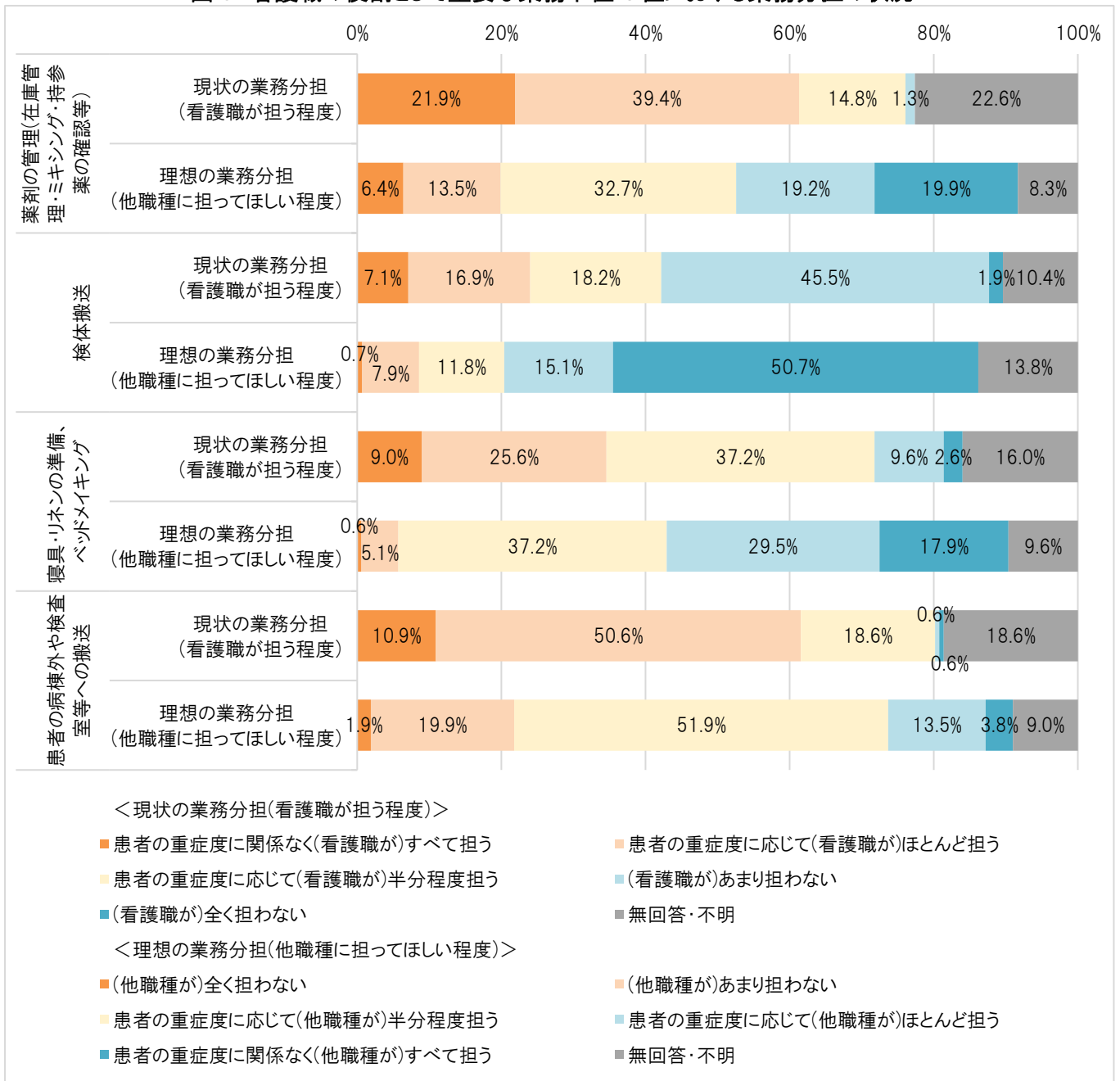
(参考)療養病棟における看護職の役割として重要だと思う業務



出典:「2013年 療養病棟における看護職の役割に関する実態調査」

7. 他職種との役割分担の現状と理想のギャップ

図 8 看護職の役割として重要な業務下位 4 位における業務分担の状況



8. 救命救急センターの看護職員離職率

表 1 救命救急センターの看護職員離職率

	救命救急センターの 看護職員離職率 (n=128)	看護職員離職率 (2014年 病院における看護職員 需給状況調査、 n=3,343)
常勤看護職員	8.8%	11.0%
新卒看護職員	7.3%	7.4%

注 1) 常勤看護職員：フルタイム勤務および短時間勤務の正職員（パート、アルバイト、臨時職員、嘱託等は含めず）

常勤看護職員離職率：添う退職者数（定年退職含む）が平均職員数に占める割合。

常勤看護職員離職率＝2013年度総退職者数/2013年度の平均職員数×100

平均職員＝（年度当初の在籍職員数＋年度末の在籍職員数）/2

注 2) 新卒看護職員離職率＝2013年度新卒退職者数/2013年度新卒採用者数×100。

表 2 救命救急センターに配属されている看護職員の救命救急センター経験年数別人数

(n=130)

	合計(人)	割合(%)	平均(人)
1年未満	1,398	17.7	10.8
1～2年未満	1,238	15.7	9.5
2～3年未満	1,009	12.8	7.8
3年以上	4,244	53.8	32.6
計	7,889	100.0	60.7
(再掲)うち新卒	600	7.6	4.6

表 3 救命救急センターにおける経験年数度数分布による離職率の違い

	2割以上(n=37)	2割未満(n=76)
経験年数1年未満の割合	10.0	8.4
	1割以上(n=36)	1割未満(n=77)
新卒者の割合	11.0	7.8

図9 救命救急センターにおける経験年数度数分布による異動希望の違い

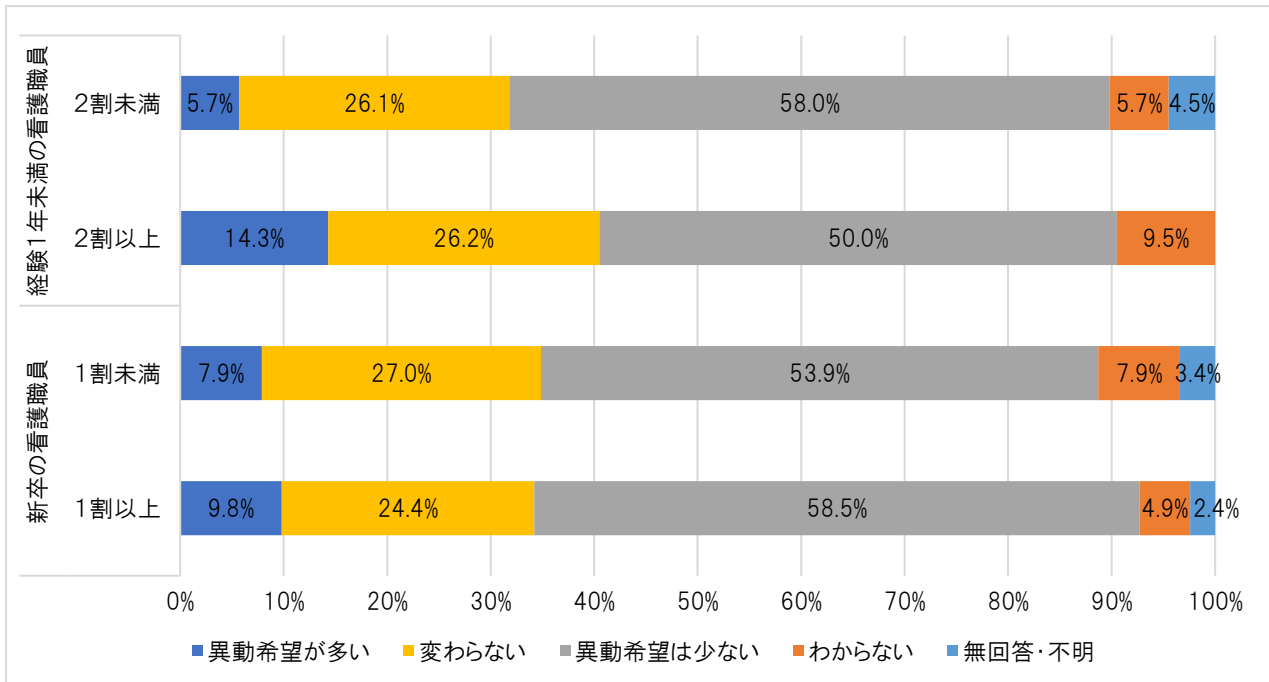
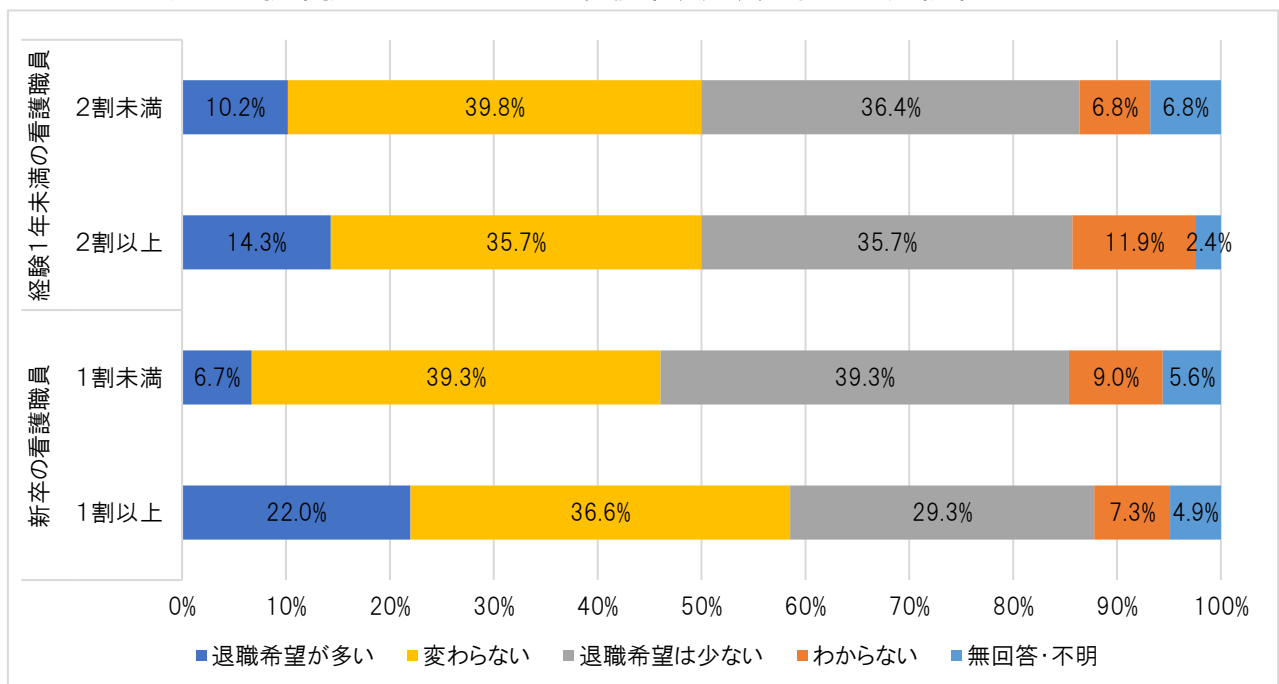


図10 救命救急センターにおける経験年数度数分布による退職希望の違い



9. 救命救急センターの夜勤時間

表4 救命救急センターの夜勤時間(2014年9月)

(n=60)

2014年9月の夜勤従事者数	3,396人
2014年9月の夜勤従事者の総夜勤時間数	265,552.5時間
2014年9月の夜勤従事者1人あたりの月平均夜勤時間数	78.2時間